

5 偶像の破壊

嘗て日本に於て自然主義の勃興し來つた當時には、偶像の破壊といふことが、人々の口に可なりのほりもした。然しそれもほんの一時的で、いつしか忘れ去られて了つた。そして偶像は依然として残つてゐる。社會生活の上にも、偶像の破壊が及んで行くには至らずして、たゞ氣紛れな思想家の物好きなき叫びに過ぎなくして終つて了つた觀がある。吾々の社會には多くの偶像がある。人々はその偶像のもとに奴隸の如く従順に仕へてゐる。偶像のもとに息が塞りさうになつてゐるのも知らずにゐる。然し偶像はいつかは倒れずにはゐない。民衆が眞に自覺め來たるのとき、偶像は必然的に倒されて了ふであらう。吾々は今何が偶像であるかを一々具體的に數へ上げなくてもよいと思ふ。たゞ吾々はほんの暗示的に言ふだけに止めておくことにしよう。先づ何よりも諸君自身が氣附いて、自分のうちの偶像を第一に破壊しなくてはならない。自分の心のうちの偶像を破壊してかゝらずには、社會の偶像を破壊することは到底出來ない。解放とは實にこの偶像からの解放である。

偶像が永久に破壊されなくてはならぬ。人間が一つの偶像を倒しても、また新なる偶像を建て、

とするとするものである。偶像の建つ限りは後から後からと倒して行かなくてはならない。偶像は歴史的象徴である。心の中の偶像にしても、社會の偶像にしても、それに支配されるのとき、人間の眞の生活は破壊され、自由は奪けられて了ふ。ロシアに於て古い偶像の倒されたことは民衆解放運動の成功を示すものであるにしても、それに代つて他の新しい偶像が居坐らうとしてゐるのを見る。その新しい偶像をもまた打ち倒さなくてはならないであらう。偶像は如何なる形に於て現はれようとも、それは倒されなくてはならない。

資本主義制度が現代社會の偶像であることは今更言ふ迄もない。或る人々は、それが永久に續くものと思つてゐるかもしれない。然しそれは偶像を信じてゐるに外ならないのであるかう、如何に果敢ない信仰であるかは、直ちに思ひ當ることであらうと思ふ。また今日の國家組織が永久に持續されるものと信じてゐる人も尠くないであらうが、オツペンハイマアは將來はだん／＼自由市民團體といふ驚な形式に向つて進化して行くべきものであると論じてゐる。

6 地代、利子、利潤の全廢を期す

自由社會の創造